

# 令和4年度ログガーデンの管理

## 西内良・荒木大蔵

令和4年度4月から12月にかけて、ログガーデンにおいて重点的に管理したエリアを図1に示す。以降、図内番号①～④のエリアでの作業を記述する。

### エリア①

つるバラ群のアーチをフォーカルポイントとするエリアである。植栽されていたつるバラについて、樹勢の衰えていた‘ピエール・ドゥ・ロンサール’、‘スーパー・エクセルサ’を抜き取り、それらに隣接して植栽されていた‘リージャン・ロード・クライマー’および‘クイーン・オブ・ブルボンズ’の誘引スペースを確保した。

また、つるバラアーチの西側にはツツジの生垣があるが、両者の空間が50 cm程度しかなく、そのため、つるバラの管理上のスペースが不足していた。このことから、ツツジの生垣を奥行約50 cm、水平距離にして約10 m程度抜き取った。

### エリア②

日当たりがよくハイブリッド・ティー系統のバラを植栽しているエリアである。このエリアについては7月と9月に見ごろを迎えるダリアを追加で植栽した(主な品種は‘黒蝶’、‘浮気心’)。これにより、花の見ごろの時期をダリアとバラで相互補完できるようにした。また、観賞期間の長い一年草であるマリーゴールドやコリウスを植栽した。

### エリア③

ウバメガシおよびツゲの生垣があったエリアである。入園ゲートからログガーデンの植栽を見通すことを可能にするため、この生垣の撤去を令和4年3月に業務委託した。その後、6月から7月にかけて階段状の小花壇を造成し、7月から11月までトレニア‘カタリーナ・ブルリバー’を植栽した。階段状に造成することが困難だった斜面部には、土留めとしてアジュガを植栽した。

### エリア④

日当たりがよく、オカメザサが植栽されていたエリアである。ここに新たなフォーカルポイントを構築するべく、5月にオカメザサを約4㎡抜き取り、バラ‘シビュラ’ならびに‘ソレロ’、そしてダリア‘ミズ・ノアール’および‘レッドスキン’を植栽した。

### その他

当年度の新規植栽は、各植栽が前景・中景・後景のいずれの役割を担うかを明瞭にすることを意識して植栽を行った。

また、ローメンテナンス化を目指し、カラーリーフやバラと相性が良いとされる多年草を試験的に複数種、数株ずつ植栽したが、トウテイラン、アルケミラ・モリスなどは越夏できなかった。そのため、令和5年度は夏の豪雨や、高温多湿に起因する蒸れに耐性のある宿根草を意識的に選択し、植栽する予定である。



図1 ログガーデンの重点作業エリア